opusdei.org

黙想:四旬節第5主日 (C年)

黙想のテーマ:「イエス、罪の女性をゆるす」「ゆるしの 秘跡は未来へのまなざし」 「痛悔の価値」

イエス、罪の女性をゆるす

ゆるしの秘跡は未来へのまなざし

痛悔の価値

ファリサイ人たちは、イエスを訴える良い機会だと思い、不貞の罪を犯

した女性を主のもとに連れてきま す。ユダヤ人の律法によれば、石打 ちの死刑に処せられる罪です。いつ も、罪人たちを非常に親切に迎え、 ゆるしているナザレの教師は何とい うだろうか?しかし、イエスは、彼 らの非難には全く気付かれないよう です。全く関心を示されず、地面に 何か書き始められます。ファリサイ 人たちが執拗に答えを迫るので、立 ち上がり、言われます。「あなたた ちの中で罪を犯したことのない者 が、まず、この女に石を投げなさ い | (ヨハネ8・7)。

女性が目を閉じて、恐怖のうちに石 の雨が降り注ぐのを待っていきるの 想像できます。自分の命が尽します。 を覚悟していたでしょう。 を覚悟している 最期をとして 基づく行為として思い巡らした。 よづく しょう。 しなし、神の慈しみは、 まで していた人々は していた人々は していた人々は していた人々は していたしないとり去って行

『婦人よ、あの人たちはどこに居るのか一イエスは尋ねられた一。だれもあなたを罪に定めなかったのか』(ヨハネ8・10)。婦人は、罪を犯したことを自覚し、たぶん、この不犯しまな先生のお咎めを待っていなくのおとは、咎めではなってはない。一つの宝をお与えになります。神るしと、新たな生活への希望でい。「わたしもあなたを罪に定めない。

行きなさい。これからは、もう罪を 犯してはならない | (ヨハネ8·11)。

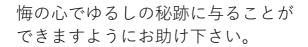
聖パウロがフィリピ人に書いていま す。「なすべきことはただ一つ、後 ろのものを忘れ、前のものに全身を 向けつつ、神がキリスト・イエスに よって上へ召して、お与えになる賞 を得るために、目標を目指してひた すら走ることです | (フィリピ3・ 13-14)。信仰を持っている私たち は、常に未来を見据えて歩みます。 私たちは、人生の一こま一こまが天 国の先取りであるようにと望んでい ます。人生の目標が現時点に、つま り日常生活に表れる過ごし方をする ように招かれたのです。

毎回、神のゆるしを願い、イエスに 走り寄ることで、この世の生活にお いて、天国を前もって味わっている のです。ゆるしの秘跡において、私 たちはキリストの死と復活の実りを与えられ、それに参与させてもらいます。ですから、いつくしみの秘跡において、私たちは、「釘づけられたその両手」を親しく感じることができるのです。その両手は、一人ひとりに開かれており、私たちを迎え入れ、無限の優しさを込めて抱きかかえてくださいます[2]。

主にゆるされていると知ることは、 私たちを過去の過ちから解き放ち、 未来に目を向けさせてくれます。聖 ホセマリアは励ましていました。

神はあなたの心を清め喜びでいっぱいにしてくださいます」図。

四旬節第5主日には聖堂内の聖像や 絵画や十字架をベールで覆う習慣が 伝統的にあります。この紫のベール は、私たちに償いの時にいることを 思い起こさせ、神と天使や聖人を象 徴するものが見えなくなることは、 より深い潜心を心がけさせてくれま す。

教会はいつも「悔い改める者の行為 としては、まず痛悔が挙げられま す」四と教えてきました。これは、 良いことをするための人間的努力だ けの問題ではありません。「恵みに よって引き寄せ、動かされる『打ち 砕かれた心』(詩篇51·19)の動き であって、先にわたしたちを愛され た神の慈愛にこたえるものです(ヨハ ネ6·44、12·32参照)」_[5]。それゆえ 

[1] フランシスコ、説教、2019年3月29日。

[2] ベネディクト十六世、講演、 2008年3月21日参照。

[3] 聖ホセマリア『神の朋友』214 番。

[4] カトリック教会のカテキズム、 1451番。

[5] 同、1428番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-shijyunsetsu-shujitsu5c/(2025/12/11)